

2008-2009

2008年度年次報告
2009年度活動計画



社団法人 シャンティ国際ボランティア会

活動地域



SVA宣言

私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話をもって解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切にし、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

SVAの歩み

活動年表

1980年	SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所（バンコク）開設。
1981年	JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会（SVA）を結成。
1983年	カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。
1984年	初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。
1985年	タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンブルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。
1989年	タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。
1991年	カンボジア事務所（プノンペン）開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。
1992年	ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。
1995年	阪神淡路大震災支援活動実施。
1997年	北朝鮮食糧支援。
1999年	「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。トルコ大震災救援、台湾大震災救援。「絵本を届ける運動」開始。
2000年	ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
2001年	インド西部大地震救援。アフガニスタン食糧支援。
2002年	佐々木主浩投手（当時）、SVA国際ボランティア親善大使就任。
2003年	アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。有馬実成著「地球寂静」出版。イラン南東部地震救援実施。
2004年	兵庫県豊岡市台風23号水害救援。新潟中越地震救援。スマトラ島沖津波災害救援実施。阪神淡路大震災10周年事業。
2005年	三宅島島民帰島支援事業開始。愛・地球博「地球市民村」へ参加。パキスタン北東部地震救援実施。
2006年	ジャワ島中部地震救援実施。
2007年	能登半島地震救援。新潟中越沖地震救援。バングラデシュ・サイクロン（台風）シドル救援実施。
2008年	ミャンマー（ビルマ）・サイクロン（台風）ナルギス救援開始。

2008 2009

2008 年度年次報告 2009 年度活動計画

INDEX

- 2 SVA 宣言・SVA の歩み
- 3 共に生き、共に学ぶ
- 4 2008 年度を振り返って
- 5 2009 年度に向けて
- 6 タイ
- 8 カンボジア
- 10 ラオス
- 12 ミャンマー（ビルマ）難民
- 14 アフガニスタン
- 16 緊急救援
- 18 日本
- 20 会計報告
- 22 組織・ネットワーク一覧

共に生き、 共に学ぶ

社団法人
シャンティ国際ボランティア会
(SVA)

会長

若林恭英

それぞれのお立場で陰に陽にSVAを支えてくださっている皆さまに、この年次報告書をお届けできることは、私ばかりではなくSVA全スタッフの喜びとするところです。

さて、昨年特に力を入れて取り組んで来たこととして、第一に経理面での作業の見直しとチェック体制の確立をし、より強固な基盤づくりを目指し成果を上げたことでした。第二として各事務所の仕事量増大にともない、それぞれの部署が連携して業務を遂行できるよう留意しました。ことに日本と海外現場との橋渡し役として十分に機能できているか否か、できていないとすれば何が問題かなどを洗い出し、改善に努めてきました。とりわけご支援いただいている方への的確な情報提供は最も大切な仕事として位置づけることを改めて確認をしました。これからは殊に海外現場でのめまぐるしい程の状況変化に対応する力と説明責任が求められるでしょう。そうした意味において我々が目指すのは、教育文化支援の質的向上において他にないと考えます。皆さまのご指導ご助言をいただければ幸いです。

さて、先般バンコクにあるスアンプルースラムの保育園（図書館併設）を一年ぶりに訪れて感じたことは、まず清潔に保たれた館内で園児たちがのびのびとしていたこと、図書館員のノンヤオさんの静かな語り口に伺える子どもたちへの愛情、それとさりげなく小さな子どもたちの世話をする上級生の姿、こうした一見なんでもない事柄の中に実はとても大事なことが含まれているのではないかと感じたことでした。それは小さな芽がスクスク育っていける豊かな土壌を感じさせました。翻ってわが国の社会においては、それらが次第にやせて来てしまっていないだろうか、と。ここにおいてより一層相互交流してゆくことが「共に学ぶ」気づきの世界、シャンティに近づける道だと思うのです。

2009 年 7 月 1 日発行

発行人：若林恭英

（社）シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31

慈母会館 2・3F

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

<http://www.sva.or.jp>

info@sva.or.jp

表紙写真：川畑嘉文

A D：矢萩多聞（Am Creation）

印刷：シナノ印刷

定価：550 円



ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにて折り紙を教える筆者

2008年度を振り返って

2008.1.1 ~ 12.31



近年ますます厳しさが増している紛争や環境破壊、貧困格差や食糧危機といった問題に加え、2008年には未曾有の経済危機が世界を直撃しました。人々の暮らしは無論のこと、SVAの活動にも少なからずの傷跡を残しましたが、危機を好機として事業と組織運営の見直しと改善に努めた一年でもありました。国際社会が掲げた「国連ミレニアム開発目標」にある「すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了する」ことを目指し、2008年度も独自の強みを最大限に生かした支援活動に努めました。



財政・組織運営面の 見直しと改善

構造的な財政問題の克服を最重要課題として掲げ、2008年度には実施事業のレベルから組織管理運営面に至るまでの見直しと改善に着手しました。

共感を得る運動体に向けた地域活動

27年間の取り組みにおける基本姿勢である「共に生き、共に学ぶ」のもと、「共感を得る運動体」づくりをめざして地域活動を展開。代議員が中心となった集いの開催や代議員宣言の作成をし、会員および協力者主催によるチャリティ寄席やチャリティライブの開催を40ヵ所を上回る地域にて行いました。

G8サミットにおける政策提言

7月の洞爺湖G8サミットでは、NGOフォーラムを通じ教育分野のODA改善にかかわる提言を行い、成果文書において教育協力の拡充が約束されるに至りました。

実施事業の質と効率の向上

原油高・物価高に加え、ドルの急激な下落が人々の生活を直撃、各国の事業面においても建設資材高騰などの影響を受けました。タイやアフガニスタンでは、政情不安や治安悪化など、個別の問題も課せられる状況にあります。限られた資源を有効に活用すべく、各国とも実施体制の見直しと事業評価を踏まえた質・効率の改善に努めました。

ミャンマー（ビルマ） サイクロン被災者救援

14万人の犠牲者を生んだサイクロン・ナルギスの被災地域、ミャンマー（ビルマ）南部デルタ地帯での救援活動を開始。18万人を対象に食料や医薬品の配布を実施した他、孤児院の建設や幼児保育施設の再建支援を継続しています。

2008年の主な出来事

- 1月 アフガニスタンで大寒波緊急救援事業を実施。
- 2月 「絵本を届ける運動」の絵本16,641冊を輸送。
- 3月 SVA通常総会を開催。
- 4月 ニッセイライフプラザ品川にて展示会とイベントを合わせた「シャンティ・カフェ」を開催（6月まで）。
- 5月 SVA専門アドバイザー制度開始。
ミャンマー・サイクロン緊急救援開始。
- 6月 「代議員の集い」を東京で開催。
- 7月 「G8サミットNGOフォーラム」による市民サミットに参加。
- 9月 東京で全事務所の所長も出席し「2009年度計画予算会議」を開催。
- 10月 「小さな絵本の大きなチカラin名古屋」を開催。
「アジア太平洋文化賞」受賞。
- 11月 ミャンマー（ビルマ）難民キャンプを訪問するスタディツアーを実施。
澤田隆史スタッフ逝去。
- 12月 SVA通常代議員会と「SVAの日」記念行事を開催。



写真：川畑嘉文

2009年度に 向けて

2009.1.1～12.31

海外事業の質の向上

すべての海外事業において、計画・実施・評価プロセスについての「SVAの海外事業の運営指針」を適用させ、社会・経済状況に応じた自立発展性を保証する事業運営に努めていきます。また、海外事務所の日本人職員の役割を国別に見直すとともに、現地職員の能力強化を推進していきます。

海外事務所の自立運営の促進

タイ事業のパートナーであるシーカー・アジア財団の現地 NGO 化を促進し、特に財政的に自立運営を可能にするための能力強化を支援していきます。また他の海外事務所についても将来的な現地自立化を見据え、組織運営能力の強化を各々進めて行きます。

「手を取りあい、共に学びあう社会」の実現を目指して、すべての子どもたちが本に触れ、夢をもって未来を開いていける社会づくりに引き続き邁進していきます。

2009-2010 年度にかけては、以下の 4 つの重点目標を掲げ、その達成に努めます。

知名度の向上と一体感の醸成

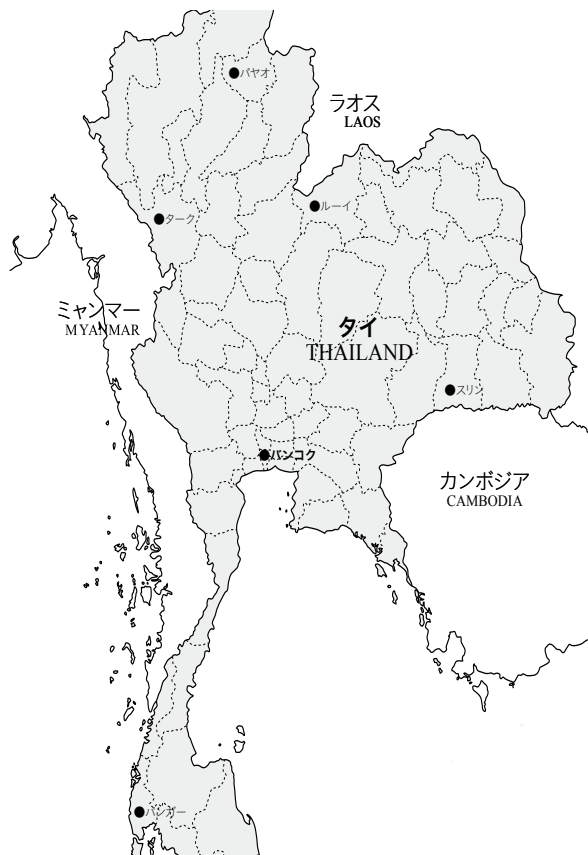
SVA とその取り組みの社会的知名度をあげるため、広報、特に図書館事業についての広報活動を強化し、支持基盤を拡大していきます。理事、代議員とともに地域レベルにて会員や代議員の集いを開催、支援者への説明責任をしっかりと果たしながら一体感の持てる組織づくりを推進していきます。

財政の安定化と 新公益法人制度への対応

絵本を届ける運動とチャイルド・ブック・サポーターおよび会員制度の見直し、アフガニスタン・ミャンマー（ビルマ）難民支援事業の民間支援者の拡大、収益事業の強化を通じて財政の安定化を目指します。また、2008 年 12 月より施行された新公益法人制度への対応に向けて、組織運営体制の改革、新基準に則った会計システムの構築をはかります。

タイ Thailand

タイでは現地法人シーカー・アジア財団を通して支援を行っています。18年目を迎える2009年は、現地職員が事業運営のみならず財政面における自立を目指し、組織計画の立案、それに基づいたスタッフの育成を実施します。



📌 国データ 公用語：タイ語

首都：バンコク

面積：514,000km²

人口：63,389,730人

(2008年、内務省)

GDP：一人当たり 3,700USドル

(2007年、日本大使館)

通貨：バーツ (B)

日本との時差：+2時間

📌 タイの概況

クーデター後の軍部による政権運営から民政復帰へと移行する中でくすぶっていた政情混乱の火種が、ついに爆発した一年となりました。総選挙を経て樹立したタクシン派政権に反発する反タクシン派による首相府・空港占拠をするに至りました。最終的に、裁判所からのタクシン派解党命令が反タクシン派の占拠を解除させ、反タクシン派の民主党が政権を握りました。当然、不満の募るタクシン派は、政府との対立姿勢をとっており2009年度も混乱が続くことが予想されます。

❖ 図書館事業

2008年度は新規事業地での活動および保育士対象の研修会を重点的に取り組みました。

新規事業地であるミャンマー（ビルマ）国境沿いのカレン族の村において移動図書館活動、保育士研修を行いました。研修会については、日本人講師による絵本・あそびのワークショップを2回実施し、参加者から好評を得たと同時にスタッフの能力向上につながりました。事業全体での受益者数は約13万人で、うちコミュニティ図書館8館の利用者が11万261人、移

動図書館活動の参加者が8,286人、研修会の参加者が457人、間接受益児童が約9,000人です。

2009年度は、ミャンマー（ビルマ）国境沿いの村での活動を継続し、並行して同県における移住労働者の子どもたちの教育状況について調査を実施します。また、研修会の質向上を目指し、保育に関する専門性向上、広報強化を課題に取り組んでまいります。

❖ 奨学金事業

バンコク・スラム地区および地方農村の中学生374人に対して奨学金の支給をしました。2008年度は新たにミャンマー（ビルマ）国境沿いの村を対象地とし60人に支給を行いました。奨学生の交流・能力向上の機会として地域の青少年リーダー育成のためのキャンプを実施し、各地の代表40人が参加しました。実施体制においては、現地職員の事業運営の能力向上を課

題としてデータ管理、業務マニュアル作成に重点的に取り組みました。

2009年度は、新規対象地においての事業を拡大するとともに、情報収集に努め行政との連携を持ちながら地域全体の教育状況の改善を目指します。さらに、現地職員の情報分析能力の強化を課題として取り組みます。



図書館研修会の様子



ミャンマー（ビルマ）から通う高校生

◎奨学生数（2008 年度）

地域名	中学生		高校生		大学生		計
	男	女	男	女	男	女	
バンコク都スアンプルー地区	8	17	8	8	0	0	41
バンコク都チュアパーン地区	4	19	2	8	0	0	33
バンコク都クロントイ地区	1	4	0	2	0	0	7
バンコク都ワチャラボン地区	1	0	1	0	0	0	2
バヤオ県ボン郡、チェンカム郡	16	49	12	30	1	3	111
ルーイ県チェンカーン郡	16	30	18	35	0	0	99
スリン県バーンサワイ郡	0	1	5	13	1	1	21
ターク県ターソンヤン郡	19	23	5	13	0	0	60
合計	65	143	51	109	2	4	374

◎学生寮数（2008 年度）

	中学生		高校生		計
	男	女	男	女	
バヤオ県ボン郡	11	9	10	12	42
ルーイ県チェンカーン郡	1	9	1	7	18
合計	12	18	11	19	60

❖ 学生寮事業

北部・東北部の学生寮 2 館において、60 人の中高生の生活を支援しました。北部はバヤオ県モン族の子どもたち 42 人、東北部はラオス国境沿いの農村の子どもたち 18 人を受け入れました。特記事項として寮生たちによる移動図書館活動があり、寮生が出身の村を訪れて絵本の読み聞かせおよび人形劇を実施しました。また食料品の価格高騰に伴い、北部の寮では、寮

生による農作業に力を入れ、米・野菜など農作物の収穫により十分な食事を確保できるよう努めました。

2009 年度は、東北部の寮について、地域の子どもの教育状況の調査を実施し、事業の見直しを図ります。また、北部の寮においては、寮生の活動の充実、地域との連携の強化、食料供給の安定化を課題とします。

❖ 研修・交流事業

日本より 101 組の団体・個人の方々、総計 647 人が事業地を訪問下さいました。NGO 海外研修プログラムでは春季生 1 人を受け入れました。また、現地職員の研修として、7 月および 11 月にスタッフを各 1 人、大阪へ招聘いた

だきました。日本の保育・教育、および地域開発など関連分野の施設を視察し、タイの現状との比較や意見交換をしました。

2009 年度は、訪問者の対応を担える現地職員の育成を目指します。

❖ スアンプルースラム火災復興支援事業

年初に図書館・保育園が併設されたコミュニティセンターの開館式を実施しました。年間の図書館利用者数 1 万 5,819 人、保育園の園児数 76 人です。火災発生より 4 年目を迎え、被災した半分の地区は復興をほぼ終えましたが、あと半分は住宅建設途中であり避難所での生活を続けています。このような状況下で、両地区

の住民が火災後初めての合同会議を図書館にて実施し、両者が協力して問題解決にあたることを確認されました。2009 年度は、5 月に予定される復興住宅への入居に伴う、地区の行政登録作業への協力、および保育園の運営委員会設置を目指します。

◎図書館利用統計（2008 年度）

図書館名	利用者数	会員数	蔵書冊数	貸出冊数	開館日数
バンコククロントイスラム図書館	20,041	754	6,079	11,237	352
バンコクスアンプルー復興地区図書館	15,819	480	2,858	4,795	257
バンコクチュアパーンスラム図書館	17,274	383	2,620	1,920	295
東北部スリン県バーンサワイ図書館	16,296	421	3,887	11,412	332
北部バヤオ県センサイ村図書館	14,969	371	1,173	4,470	235
南部バンガー県ブルッティアウ図書館	4,527	516	2,419	3,550	283
南部バンガー県サマキータム寺内図書館	13,017	545	2,467	3,753	339
南部バンガー県ナイルイ図書館	8,318	458	2,750	5,376	311
合計	110,261	3,928	24,253	46,513	



寮生の農園づくり



基幹労連さまスラムご視察

© Seto masao



スアンプルーコミュニティセンター開館式
© Seto masao

カンボジア Cambodia

スタッフ全員がそれぞれの使命を責任をもって果たしていく「プロフェッショナル」を目指し、日本の皆さまから、そして、カンボジアの人たちから信頼される集団となっていきたいと思ひます。また、4つの事業プラス管理セクションの協力・連携を強化して、カンボジアの教育・文化の問題により深くかかわっていく体制を作っていきます。運営面の課題として、ご支援者対応の改善を講じていきます。



国データ

公用語：クメール語
首都：プノンペン
面積：181,000km²
人口：1,340 万人
GDP：一人当たり 649US ドル
(2007 年、IMF 資料)
通貨：リエル (KHR)
日本との時差：-2 時間

カンボジアの概況

内戦後、4 度目の総選挙が 2008 年 7 月に実施されました。与党長期政権による政治的安定と経済発展により平和構築が進められていく一方、都市部のスラムの増加など貧富の格差の拡大が社会問題となっています。教育分野でも、地方を中心として小学校校舎や教員の不足など、都市と地方との格差も広がっています。

❖ ドリームスクール事業

学校校舎などのハード支援だけではなく、「知育」「徳育」「体育」すべてがバランスよく浸透し、学校、村、教育局が一体となって発展していく夢の学校を作ろうという願いを込めて、昨年度までの「学校建設事業」から改称を行い、それを実践してきました。

校舎建設前から学校敷地内の有効利用を村人と考え、教育局からも意見を聞き取りました。学校の将来像を「マスタープラン」にあらわすことで、関係者が共通の目標を見て、それぞれ自分の果たすべき責任をはっきり自覚することができるようになりました。

2008 年度は、世界的な燃料の高騰、建設ラッシュ、タイ国境の紛争などの影響も受けて、工賃を含むすべての建設費用が値上がりする厳しい状況の中、シェムリアップ州とコンボントム州を中心に 16 棟の小学校建設が完了し、2,321 人の子どもたちが安心して学ぶことができるようになりました。

2009 年度は引き続き、教育局関係者との強い協力体制ができたシェムリアップ州とコンボントム州を中心に、12 棟の小学校でドリームスクールの活動を進める計画です。

❖ 図書館事業

子どもが通いたいと思える図書館作りをめざし政策を作っていく教育省職員と州レベルの担当官、現場の校長先生、図書館員そして SVA スタッフが一体となり、2008 年度は研修会を中心に活動を行いました。シェムリアップ州とコンボントム州を対象に 7 回の研修会を実施し 373 人が参加、プノンペン市では、11 州から 81 人が参加して意見交換を行い、これまでの活動の集大成となる図書館活動マニュアル案を作成しました。移動図書館活動は 152 回行

われ、3 万 7,345 人の子どもが読み聞かせに耳を傾けました。また、出版では絵本を 5 タイトル(各 3,000 冊)、紙芝居を 3 タイトル(各 350 部)印刷し、日本からの絵本とあわせて小学校へ配布しました。その他、2 棟のモデル子ども図書館建設も実施しました。

2009 年度はシェムリアップで行っている研修会活動の最終年度となるため、関係諸機関との連携を強化しつつ、事業を実施していきます。

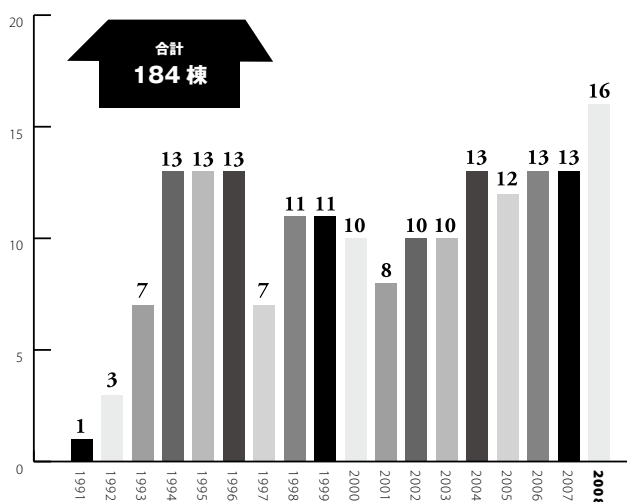


完成した小学校から下校する生徒たち



図書室大好きな人手を上げて！

◎小学校建設数（1991-2008 年度）



◎絵本・紙芝居
出版タイトル数（1993-2008 年度）

年度	絵本	紙芝居	計
1993	3	0	3
1994	12	3	15
1995	9	2	11
1996	7	1	8
1997	7	2	9
1998	2	3	5
1999	6	2	8
2000	7	2	9
2001	3	2	5
2002	6	3	9
2003	5	2	7
2004	5	2	7
2005	5	1	6
2006	5	3	8
2007	5	3	8
2008	5	3	8
合計	92	34	126

❖ スラム事業

2008 年度はプノンペン市内の最貧困スラム 20 カ所へ定期巡回し、移動図書館活動を 240 回行い、1 万 5,148 人（子ども 1 万 3,671 人、大人 1,477 人）が参加しました。貧困家庭が多いスラムでは働く子どもが多いのですが、ゴミを拾ったり野菜を売るなどして生計を助ける子どもたちも、手を休めて活動に参加していました。また、スラムで活動する現地 NGO のコミュニ

ティ図書館に図書箱を配布すると共に、スラム住民の再定住地にあるトロペアン・アンチャン小学校の児童 259 人へ移動図書館活動とともに学用品支援を行いました。

2009 年度は引き続き 10 カ所のスラムへの定期巡回を行うと共に、スラムで活動する他の NGO へ図書箱や絵本の配布を行い、連携を深めながら活動の質を高めていく予定です。

❖ 文化支援事業

2008 年度は、クメール人の精神的支えとなっている寺院の僧侶を中心に、研修会と自然保護活動をコンボントム州とスヴァイリエン州で実施しました。研修会では、「自然保護と生物多様性」、「クメール伝統音楽の保存」そして「クメール文化遺産保全における寺院の役割」をテーマに 3 回実施し、計 838 人の僧侶が参加しました。また、僧侶と村のリーダーのためのクメール建築様式、文化、自然保護について学

ぶツアーを実施し、16 人が参加しました。自然保護活動では、苗木センターを各寺院内に 3 カ所設置し、23 種計 4 万 3,918 本の苗木を育成しました。また、前年度に育成した苗木 4 万 2,716 本の植林活動も行いました。植林には、村人を含め 2,589 人が参加しました。

2009 年度は引き続き、仏教寺院を通じた人材育成や、伝統文化・自然保護活動を実施していく予定です。



『おおきなかぶ』（福音館書店）の読み聞かせ



スラムで絵本を読む女の子



植林した木のモニタリング

ラオス Laos

「モデルとなる施設や活動を作り」、「ネットワークを通じ」、「より困難な地域に普及拡大」していくというラオス事務所の方針を今後も継続します。また 1992 年事務所開設以来 16 年の経験を元に、他団体にはない活動を長期的に続け、ユニークでかつ効果的な事業を実施していきます。そして「人材育成」はすべての事業の要です。研修会やトレーニングの実施、ラオス語の教本教材やテキストづくり等、「人づくり」のための活動に特に力をいれていきます。

国データ

公用語：ラオス語
首都：ヴィエンチャン
面積：240,000km²
人口：580 万人
(2006 年、世界統計)
GDP：一人当たり 678USドル
(2007 年、ラオス政府)
通貨：キップ (KIP)
日本との時差：- 2 時間

ラオスの概況

2008 年には外国資本の銀行の設立が相次ぎ、今後外国からの投資がよいよ本格化していくことが予想されます。
年 7 % 程度の順調な経済成長から、首都では新しいホテルやレストランが次々とオープンしています。その一方で農村部の開発は取り残されており、教育の分野でもまだまだ支援が必要といえます。首都で富裕層が多く生まれるなか、地方では一日一ドル以下の生活を余儀なくされている人たちがほとんどです。



❖ 図書館と青少年事業

2005 年から始まった 3 年間におよび「公共図書館支援を通じた図書・読書普及事業」が終了しました。6 県において、公共図書館の建設、蔵書支援、図書館員育成、読書推進活動の指導を通じて、多くの人たちに図書と触れる機会を提供することができました。また SVA のバックアップを受けて、全国の図書館関係者の念願であった「ラオス図書館協会」が設立され、関係者のネットワーク構築が始まったことも事業の大きな成果といえます。今後も公共図書館へのニーズはますます高まっていきます。

図書箱配布活動は、109 箱をラオス北部シェンクワン県の 52 校の小学校に配布しました。68 人の先生が参加して研修会を実施し、1 万 1,300 人の児童が読書の機会を得たことになり

ます。

移動図書館活動は、首都の幼稚園や小学校、障がい者施設、福祉施設、公園などを巡回し、年間 285 回のサービスを実施し、2 万 7,800 人の利用がありました。今では「来て欲しい」と学校からのリクエストが殺到しています。

出版の分野では、創作民話絵本 3 タイトル (各 3,000 冊)、幼児教育ハンドブック翻訳 (500 冊)、公立図書館司書の DDC (デューイ 10 進分類法) 図書分類などラオス語での出版を行い、各方面から好評を得ました。

2009 年も公共図書館支援および図書館協会支援に力をいれ、ラオス全国の図書推進活動を進めていきます。



移動図書館活動



図書箱配布活動

◎ 図書箱配布数（図書袋含む） 1992～2008 年

年度	配布県	箱数	配布 学校数
1992	ルアンパバーン、ボリカムサイ、カムムアン、サイヤプリ	143	143
1993	ボケオ、ヴィエンチャン県	66	66
1994	ウドムサイ	90	90
1995	セコン、アタプー、ホアパン	150	150
1996	シェンクワン、サワンナケート、チャンパサック	150	150
1997	ポンサリー、ルアンナムター、サイヤプリ	155	155
1998	ボケオ、サラワン	102	102
1999	ポンサリー、アタプー、カムムアン	150	150
2000	サワンナケート、サラワン、チャンパサック	90	77
2001	サワンナケート	90	30
2002	サワンナケート	90	32
2003	サワンナケート、ヴィエンチャン県	101	61
2004	ルアンパバーン	90	64
2005	ルアンパバーン	90	55
2006	ルアンパバーン	94	69
2007	シェンクワン	90	60
2008	シェンクワン	109	52
合計		1,850	1,506

支援した図書の数、1 箱約 130 冊として 24 万 500 冊

◎ 移動図書館活動 2008 年統計

	月平均	合計
回数	23.8	285
利用者・学生 （うち女性）	2193.7 999.7	26,324 11,996
利用者・教師 （うち女性）	127.8 72.8	1,533 873
貸出者・学生	97	1,164
貸出者・教師	23.6	283
貸出冊数	631	7,572



少数民族児童向け「絵カード」

❖ 学校建設と村ぐるみの教育改善事業

サラワン県に 5 棟、サワンナケート県に 1 棟の小学校校舎建設を行いました。その結果、約 600 人の子どもたちがより良い環境で、安全に学習できるようになりました。1993 年の事業開始以来、37 棟の学校校舎（小学校および幼稚園）が完成したことになります。

少数民族の多い地域では、「ラオス語の話せない」子どもたちと、「ラオス語しか話せない」先生との間で意思疎通ができず、児童が学校に来ない、すぐに先生が辞めてしまう、といった問題が日常茶飯事です。新しい恒久的な校舎ができたことは、先生にも子どもたちにも「学校

に行こう」とする強い動機付けになりました。

また、サラワン県の主要な 5 つの少数民族の言葉を記載した「絵カード」セットや紙芝居、文化地図といった視覚補助教材を製作し、サラワン県全県で研修会を実施、配布を行いました。ラオス語の基礎のない少数民族の子どもたちにとっては、視覚的に理解できる補助教材は、授業の内容を理解するために非常に有効です。

2009 年も学校建設、教材製作および教員研修会を継続し、ラオスの基礎教育の普及に力を注ぎます。



住民参加型の学校建設（サラワン県）



ナーサン小学校贈呈式

❖ 「文化と教育のための子どもの家」事業

2008 年度ののべ利用者数は、1 万 8,260 人（うち女子が 1 万 738 人）でした。平均して一週間に 400 人の子どもたちに利用されています。伝統文化活動や読書推進活動を中心に、活発に活動を行っています。2008 年の成果として、当事業を SVA と共同でおこなう「ラオス子ども文化センター」が情報文化省の専門機関として正式に認証されました。情報文化省に連なる「国立図書館」や「国立 TV 局」と同等の扱いとなり、この活動がラオス政府から評価され、全国

に普及させていくことが公式に認められたことになります。2008 年までに全国に 35 カ所の「子ども文化センター」が開館しました。事業開始から 12 年、いよいよ「子どもの家」の活動は全国モデルとなり、ラオス全県での本事業普及に弾みが付いています。

2009 年は、本事業の長年のカウンターパートである「子ども文化センター」の独立に向けて、ラオス政府とともに活動地を確保する努力をしていきます。



「子どもの家」での伝統舞踊の練習

ミャンマー(ビルマ) 難民 Myanmar (Burma) Refugees

② 主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ難民キャンプ	15,798 人
メラマルアン難民キャンプ	16,373 人
メラ難民キャンプ	37,000 人
ウンビラム難民キャンプ	14,824 人
ヌボ難民キャンプ	13,883 人
バンドンヤン難民キャンプ	4,454 人
タムビン難民キャンプ	7,968 人
合計	110,300 人

2007 年度との比較 ▲ 7,705 人

(2009 年 2 月 TBBC 調べ)

③ 難民キャンプの概況

タイ側に難民がやってきてからすでに四半世紀たちますが、14 万人のキャンプ人口はここ数年変わりません。2005 年から開始された第三国定住政策では欧米 11 カ国に 5 万人を送り出しましたが、対岸には 45 万人の国内避難民が滞留。また、デルタ地帯を襲ったサイクロン「ナルギス」や継続する人権侵害によって、難民人口が一向に減らない構造にあります。日本政府も 2010 年度から 3 年間、毎年 30 人の難民を受け入れる方針を発表しました。

難民たちは帰還の目処がまったく立たない中、第三国定住政策に希望を見出し、それを目指した新たな難民流入も目立ちます。また、難民のタイ定着は明言されていないものの、タイ政府の方針によりキャンプ内でタイ語教室が盛んになっています。キャンプ在住者のニーズに応じて公共図書館の役割も多様化しています。2009 年度も図書館員の定着やサービスの向上は課題ですが、事業スタッフの能力強化も含めて地道に取り組んでいきます。

❖ 図書館事業

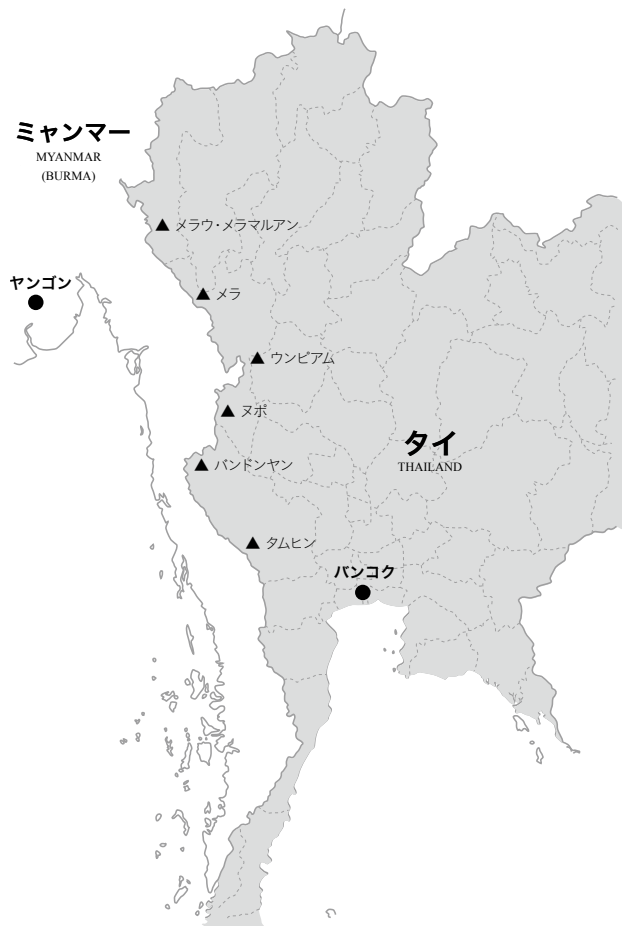
◎ 既存の図書館建物の拡張・改築

図書館はキャンプ側及び運営の都合上、2008 年度に 1 館を閉じ 24 館となり、さらに 2009 年度には 2 館を閉じて 22 館になる予定です。昨年度はとりわけ大規模な修理はなく、竹やユーカリを使った構造補強と屋根材を交換しました。2009 年度はメラマルアンキャンプで、崖崩れの危険がある場所から第 5 図書館を移し、近隣の図書館との統合を計画しています。

◎ 児童書、成人用図書の配布

日本及びタイで出版された絵本各 10 タイトルを各図書館に 4 冊ずつ配布しました（訳はカレン語・ビルマ語各 2 冊）。平和をテーマにした『ひろしまのピカ』（小峰書店）『せかいいちうつくしいほくの村』（ポプラ社）なども加え、キャンプ内での「心の平和構築」の推進に役立てています。カレン語版のみ「絵本を届ける運動」の参加者にご協力頂きました。

成人用図書は、雑誌や新聞など定期的に配架するほか、小説、農業、家庭、保健・医療関係書など、利用者の希望に応じて購入、配架しています。しかし、2008 年度は書籍代の値上がりから毎月平均 35 冊程度の購入に留まりました。



◎ 文化学習活動

各図書館では、子どもたちだけでなく、図書館委員会や父母たちと協力してさまざまな行事を実施しました。こどもの日、絵本コンテスト、母の日、カレン族のお祭り、父の日など図書館を会場に 5 回程度開催しました。

◎ 図書館員・図書館委員会への研修

既存の図書館員への研修は各キャンプで 1 回、新人に対する事前の基礎研修は随時実施しました。11 月には第 6 回図書館員合同研修会をメラマルアンキャンプで開催。残念ながらタムビンキャンプの図書館員が参加できなかったものの、各地の図書館員・キャンプ付事業コーディネーター総勢 45 人が参加。新しい運営技



カレン族の女の子たち



密集する住居

◎図書館利用者数 (2008 年 1 ～ 12 月) 利用者総数 : 78 万 9,714 人

年齢層	男性 (人)	割合 (%)	女性 (人)	割合 (%)	合計 (人)	割合 (%)
0-4 歳	12,326	4 %	11,634	3 %	23,960	3 %
5-17 歳	271,492	70 %	291,927	71 %	563,419	71 %
18-59 歳	95,687	25 %	100,077	25 %	195,764	25 %
60 以上	3,101	1 %	3,470	1 %	6,571	1 %
合計	382,606	100 %	407,108	100 %	789,714	100 %

●対象キャンプ

ターク県……メラ、ウンビラム、ヌボ／メーホンソン県……メラマルアン、メラウ
カンチャナブリ県……バンドンヤン／ラチャブリ県……タムヒン

術を学び、図書館員同士お互いに経験交流しながらの 3 泊 4 日となりました。

◎ コミュニティを対象とした活動

図書館青少年ボランティアは各キャンプ約 20 人の若者たちで構成されています。2008 年年度も年 2 回の人形劇研修会を実施し、オリジナル作品や名作絵本の人形劇やゲームを中心にした「おはなし会」を各図書館で行いました。

こうした青少年活動と高齢者活動を有機的に結び付けて、両者が元気になるような交流企画も各キャンプで 2 回程度実施しました。

◎ 伝統文化活動

2008 年度は伝統弦楽器 4 種類 (タナキクロ、カナ、ソートゥ、マンドリン) とカレン舞踊の教室を実施しました。キャンプ住民が主に使用しているスゴー・カレン語に比べ、文化芸術などの表現や語彙に優れているポー・カレン語の教室も、ヌボキャンプでサポートしました。

実施している伝統文化教室 教室のあるキャンプ数

タナキクロ	6
カナ	4
ソートゥ	3
マンドリン	1
カレン舞踊	7
ポー・カレン語	1

2009 年度は、週単位から 1 カ月の集中講座形式に移行し、より子どもたちが活動に専念できるよう工夫していきます。

◎ 絵本・教材出版

出版は高齢者から聞き取った民話 3 タイトル (2 言語) の編集・印刷に取り組みました。「かた

つむり王子」と「父からの贈り物」に関しては、資金繰りと印刷会社の都合もあり予想以上の時間を要したため、印刷完了は次年度に持ち越されました。

タイトル	カレン語	ビルマ語
かたつむり王子 (民話)	1,000 冊	1,000 冊
きつねの家族 (民話)	1,000 冊	1,000 冊
父からの贈り物 (民話)	1,000 冊	1,000 冊

2009 年度は、前年の絵本コンテストの入賞作品を含め、5 タイトルの出版に取り組みます。

◎ 絵本を通じた親子ふれあい活動

2008 年度も、図書館を知らない、あるいは利用したことのない母親層に働きかけ、7 月に幼児に対する読書推進のワークショップを実施しました。読み聞かせの意義と効果を理解した母親たちは、特別に用意された図書箱から絵本を借りることが増えています。「母親だけでなく父親も研修が必要」「大人にとっても絵本は識字効果がある」などの感想が聞かれます。

2009 年度も同様の研修を実施して、保育所、図書館、家庭のどこでも子どもたちが絵本に触れられる機会を拡大していきます。

◎ タイ・カレン保育所・小学校での移動図書館活動

2 年間関わってきたターク県ターソンヤン郡の保育園および小学校は、あわせて 40 校近くになりました。ターソンヤン郡自体の関心も高まり、ますます本格的な関わりが始まっています。

2009 年度も、シーカー・アジア財団と協力して、遠隔地のタイ・カレンの子どもたちに「絵本」が届くよう活動をサポートしていきます。



図書館で楽しむ親子



難民の女の子による読み聞かせ



図書館で絵本を楽しむ大人と子ども



授業風景

アフガニスタン Afghanistan

ナンガハール州の州都であるジャララバード市の全小学校を中心に図書館活動を普及させ、定着していくよう取り組んでいます。地域住民との関係強化に努め、教育省のガイドラインに基づいた学校建設活動を継続しています。公教育だけでなく、経済的な理由により学校に通えない子どもたちへの教育の機会の提供、地域への図書館活動の理解促進にも力を入れていきます。

引き続きカウンターパートである地方政府、他の援助機関と連携を図り安全に配慮しながら活動を行います。

国データ

公用語：パシュトゥン語、ダリ語
 首都：カブール
 面積：652,225km²
 人口：3,100 万人
 （2008 年、国連推計）
 GDP：1 人当たり 319US ドル
 （2006 年、国連推計）
 通貨：アフガニ（AFA）
 日本との時差：－4 時間 30 分

アフガニスタンの概況

軍事作戦に市民が巻き込まれることが増加するアフガニスタンでは、緊急人道支援計画が発表されましたが、必要とする支援の 41% 程度しか集まっていません。今冬は比較的穏やかで、被害は最小限ですんだといわれています。教育分野においては、南部、東南部の 620 校が治安の悪化により閉鎖に追い込まれました。これらの学校の再開は緊急課題とされています。



❖ 学校図書室推進事業

◎教員ワークショップ・図書室設置活動

2008 年度は、ジャララバード市内 22 校の小学校教員を対象に 5 日間の図書活動研修会を実施し、計 1,006 人の教員が参加しました。研修会終了後には、各学校に図書室用の家具、備品を設置し、700 冊の図書（パシュトゥン語 100 冊、SVA 出版絵本 500 冊、日本からの絵本 50 冊、青少年向けの本 50 冊）を提供しました。

2009 年度は、ジャララバード市内 22 校の小学校教員を対象に 2 回目の研修会及び SVA 建設校 6 校にて図書活動の研修会を行う予定です。

◎移動図書箱活動

2008 年度は、各図書箱に約 50 冊の本を入れ、26 校を対象に合計 236 回の移動図書箱活動を行い、小学校 1 年生から 6 年生まで 7,296

人の子どもたちと 369 人の教員が参加しました。

2009 年度は、引き続きジャララバード市内 22 校と SVA 建設校 6 校を対象に活動を継続していきます。

◎絵本・紙芝居出版事業

2008 年度は、9 タイトルの絵本をパシュトゥン語、ダリ語各 600 冊、2 タイトルの紙芝居をパシュトゥン語、ダリ語各 200 セット出版しました。出版においては、出版委員会のメンバー 7 人が、お話の選定、構成などに関わりました。これらの 1 万 800 冊の絵本と 800 セットの紙芝居は、ナンガハール州の 28 校の約 6 万 3,924 人の児童と、子ども図書館にて活用されます。

2009 年度は、絵本 6 タイトルと紙芝居 2 タイトルを出版する予定です。

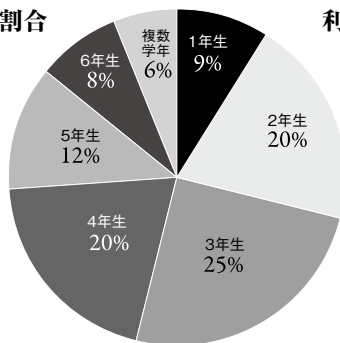


ジャララバード市内小学校での図書活動研修会

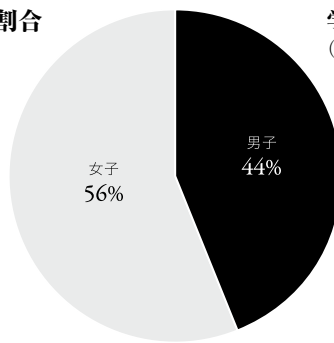


移動図書箱活動

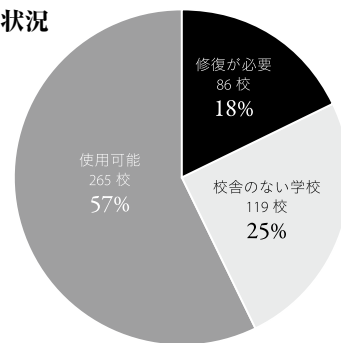
◎移動図書箱活動に
参加した学年割合



◎子ども図書館
利用者割合



◎ナンガハール州の
学校の校舎状況
(全 470 校)



◎ 2008 年度に建設した学校

学校名	所在地	児童数	教員数	建設した教室数
カライシャヒ小学校	グライヌール郡	910	26	13
タウカルババ小学校	シェワ郡	1377	29	13
タキアガレイ女子小学校	パティコット郡	601	18	8
ザルパチャ女子小学校	コット郡	190	4	4

2008 年度までの累計

建設校数：19 棟、建設教室数：203 教室、裨益児童数：1 万 5,578 人

◎ 2008 年度に出版した絵本・紙芝居

	2008 年度	2008 年度までの累計
絵本	9 タイトル (バシュトゥン語、ダリ語各 600 部)	44 タイトル
紙芝居	2 タイトル (バシュトゥン語、ダリ語各 200 部)	8 タイトル

❖ 子ども図書館事業

2008 年度は、3 歳から 15 歳までのべ 2 万 3,339 人（ひと月あたり平均 1,940 人）の子どもたちが子ども図書館を訪れました。学校に行けない子ども、学習に遅れが生じている子ども、経済的に学校を休みがちな子どものための学習教

室を開講し、約 50 人が参加しました。月例活動においては、母親会の参加人数がこれまでで、一番多い年となりました。

2009 年度は、貸し出し本の充実に力をいれていきます。

❖ 学校建設事業

2008 年度は、合計 4 棟の学校建設事業を行いました。学校建設終了後には、教員、住民向けの学校校舎維持・管理研修会を行いました。各学校には、図書室の設置、図書の配布、教員向け家具備品及び生徒向けの文具の提供

をしました。

2009 年度は、ソクロッド郡ファクルラ小学校、シェワ郡アハマディコット小学校、ソクロッド郡カイラバッド小学校を対象に 3 棟の学校建設事業を行う予定です。

❖ 研修交流事業

2008 年 5 月 21 日から 6 月 1 日に学校建設スタッフ、図書館事業スタッフ 2 人の招聘を行いました。また、12 月 5 日から 20 日まで東京事務所にて経理スタッフへの研修および

事業調整を行いました。現在日本人職員の常駐がままならない中で、現地職員の能力強化や日本での交流が重要となっています。



子ども図書館にて伝統舞踊アタンを練習する男の子



子ども図書館にて人形劇を待つ子どもたち



建設校の男子児童



建設校の女子児童

緊急救援 Emergency Relief

2 008年はアジアで大災害が頻発しました。前年に始めたバングラデシュのサイクロン被災地支援活動が継続中であった5月2日未明、再び巨大サイクロンが隣国ミャンマー（ビルマ）を襲いました。死者・行方不明者 13 万 8,000 人以上、被災者 735 万人以上という大災害となり、SVAでは同月から被災者救援活動を開始しました。同月12日には、中国四川省を中心とするマグニチュード 7.9 の大地震が発生し、7万人を超える犠牲者ができました。SVAでは2つのサイクロン被災地に対して直接支援活動を行い、中国の大地震に対しては、日頃から参加している日本国内の「災害支援ネットワーク」を通じて支援に参加しました。



被災した村の保育施設で、日本から届いた絵本を読むスタッフ（ミャンマー）



全てを失った家族（ミャンマー）



サイクロン遭難のための宿舎（ミャンマー）

❖ ミャンマー（ビルマ）サイクロン被災地救援事業

巨大サイクロン「ナルギス」は、ミャンマー（ビルマ）南部の海岸線に沿って猛威をふるいました。暴風雨により、津波のような高潮が発生して村々を襲い、海水にのみ込まれた大勢の方々が溺れて亡くなりました。うまく泳げなかった子どもたちや、逃げ遅れたお年寄りに多くの犠牲がでました。SVAでは、被災直後5月6日から緊急救援物資の配布を開始し、同国政府や国連機関の救援の手が届いていない地域を中

心に、2ヵ月間でのべ18万2,000人の方々に飲み水、米や野菜などの食料、医薬品、家屋修理のための資材を手渡しました。一方、国境を越え隣国タイに逃れたサイクロン被災者が一時的に身を寄せた「避難所」の運営支援も行いました。また、サイクロン遭難者が安心して暮らすための孤児院の生活棟の建設（2棟）と、被災した村の34棟の保育施設の再建など、復興支援活動を2009年夏まで継続して行く予定です。

❖ バングラデシュ・サイクロン被災地復興支援活動

2007年11月15日深夜、バングラデシュ南部を巨大サイクロン「シドル」が襲い3,300人以上が亡くなり、約150万世帯が大きな被害を受けました。貧しい農村の家は強風により倒壊し、田畑は高潮により塩害を受けました。農家では家畜を、漁師は船や漁網を流されて、多くの被災者は生計の手段を失いました。SVAではサイクロン発生後の2週間後から被災地へ入り、約1年にわたり救援活動

を行いました。コミュニティの団結力を活かすため、全壊した村の集会施設「ゴノケンドラ」18棟を再建しました。教育活動の再開のために、泥流で教科書や文房具を失った1,000人の子どもたちに教科書や学用品を配布しました。また、今後もサイクロンや洪水に遭う可能性の高い地区には、サイクロン・シェルター（4棟）を建設し、地域の防災力を高めて将来の災害に備える工夫を行いました。



戻った子どもたちの笑顔（バングラデシュ）

❖ 中国・四川大地震支援活動

サイクロン被災者の支援活動を2カ国で同時に行うなか、中国の四川省で大地震が起きました。SVAでは国内外の大規模災害に備えて、複数の「災害支援ネットワーク」に加盟していますが、大災害が同時に起きた難局で、この「つながり」が活かされました。災害支援ネットワークでつながる（特活）静岡

県ボランティア協会が中心となり、全国の33団体が参加して「四川省大地震被災地にテントを贈る運動」が展開されました。SVAも呼びかけに参加し、日本各地から400を超えるテントが集められ、被災者の元へ届けられました。



道沿いに続く仮設小屋（中国） 写真：関口威人

❖ 防災ワークショップ

日本国内では、地域の防災力を高めるために「防災講座」への講師派遣やワークショップを開催しています。「一緒に体験する」や「共に考える」という姿勢を基本に、地域の方々との協働による防災学習の場を設けています。

2008年は大阪市天王寺区の寺町で「防災てらまちウォーク」を実施しました。参加者は街を歩きながら、防災に活かせる「我が町の強み」について考え、話し合い、災害発生時のイメージを共有しました。



お寺で考えた、災害時の井戸水の利用方法

❖ ネットワーク活動

「顔の見える関係」を大切に、日頃から他団体との関係づくりに努めています。9月23日には「東京災害ボランティアネットワーク」に加盟している団体を中心に、「帰宅困難者対応訓練」を開催。首都圏直下の大地震に備え

た体験型の訓練を協働で運営しました。そのほか「震災がつなぐ全国ネットワーク」や「被災地支援プロジェクト会議」の定例会等に出席し、情報交換や日頃からの関係づくりを通じ、災害に備えた連携の強化を図っています。



「1.17 灯りのつどい」阪神淡路大震災祈念行事

日本 Japan

2008年度は、東京で4月から6月まで「シャンティ・カフェ」と称して報告会と展示会を同時に行いました。10月には「小さな絵本の大きなチカラ in 名古屋」、さらに地域支援者と協力してチャリティコンサートやチャリティ寄席も開催しました。2009年度は、代議員との連携を強化するために「代議員勉強会」を実施します。また、会員やご支援者と直接顔を合わせる機会を持ち、さらなる活動への理解や交流を深めていただくため、首都圏以外でも報告会やイベントを開催する予定です。



子どもも大人も絵本作りに夢中

絵本を届ける運動

10年目を迎えた2008年度、目標の1万7,000冊を大きく上回る2万2,649冊の絵本を届けることができました。個人のほか、のべ111の学校、193の企業が参加し、運動への参加者は各地で大きく拡大。バルマーク教育助成財団からの助成や船会社による輸送支援も継続していただきました。2009年度は1万8,000冊を目標に「絵本のタネ」を集めます。

広報活動

2008年は、ホームページの整備により引き続き年間アクセス数が増加。デザインを一新したニュースレター「シャンティ」も好評をいただいています。(社)落語芸術協会との共催で、寺院を中心に「チャリティ寄席」を36カ所(参加者3,485人)で開催。2009年度は企業にも広がり、前年以上の開催が見込まれます。ブログ「ほっとシャンティ」では、より「ほっと」な情報を、タイムリーにお伝えできるように努めます。チャイルド・ブック・サポーターを柱とした広報および宗教法人への広報も力を注ぎます。



ツアー訪問地、タイのカンチャナブリにて

チャイルド・ブック・サポーター

2008年度末までに551人、740口のご登録をいただきました。

6月の東京、10月の名古屋での催しは、サポーターとの有意義な交流の機会となりました。11月にはミャンマー(ビルマ)難民キャンプへのツアーを実施、サポーター、会員の皆さまが図書館に集う子どもたちと交流しました。2009年度も、サポーターとの信頼関係を丁寧に築いてまいります。



チャリティ寄席



2009 年度版 カタログ

クラフト・エイド

2008 年度は、売上額が予想比の 124%、新規登録店舗が 10 件増えました。フェアトレードに注目が集まり、メディア記事掲載が 3 件あり、講演会・ワークショップは 5 回開催しました。2009 年度は、「フェアトレードのある 1 日」をテーマにし、アジアのクラフトを身近なものとして、日常で使っていただけるように広報していきます。



古本楽市の様子

リサイクル・ブック・エイド

2008 年度は、メディア記事掲載が 2 件あり、その結果募金額が予想比の 137%、ご協力者が 504 件増えました。10 月からのシステム変更に伴い、新しいチラシを作成しました。2009 年度は、ブログなどの媒体を利用して新規協力者の開拓に努めていきます。



アフガニスタン事務所スタッフシャギーブ来日報国会

海外事業支援

2008 年度海外事業の募金活動をほぼ予算通り達成。ご支援者窓口としての対応や報告書の改善に努めました。また、事業評価活動への職員派遣や事業計画作成の助言に力を入れ、国内の活動との連携を推進しました。そして、アフガニスタンを中心に政府の援助政策への政策提言、NGO のネットワーク活動にも参加しました。2009 年、海外事務所との連絡を綿密に行い、わかりやすく事業をお伝えできるよう努めています。



EFA キャンペーンでの世界一大きな授業

企画調査・政策提言活動

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) の事務局として、洞爺湖 G8 サミットを通じて教育分野援助の拡充のための政策提言を行いました。また JICA、ユネスコアジア文化センターと共催により、『万人のための教育グローバルモニタリングレポート 2008 年度版』の日本語版の出版、セミナーを実施しました。文部科学省委託事業として図書館事業および HIV/AIDS 教育についてのマニュアルを開発しました。

会計報告

Accounting Report

《一般会計》2008 年度収支計算書

2008 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

(単位：円)

事業活動収入	729,994,574
基本財産運用収入	125,340
特定資産運用収入	538,449
会費収入	30,537,400
寄付金収入	400,129,728
事業収入	77,345,373
補助金等収入	211,759,459
雑収入	221,271
特別会計繰入金収入	9,337,554
事業活動支出	608,010,720
事業費支出	545,196,180
タイ事業費支出	36,402,675
カンボジア事業費支出	159,313,162
ラオス事業費支出	81,517,130
ミャンマー（ビルマ）難民支援事業費支出	50,343,199
アフガニスタン事業費支出	91,940,918
絵本を届ける運動事業費支出	41,396,209
チャイルド・ブック・サポーター事業費支出	15,753,481
クラフト・エイド支出	42,058,093
企画調査支出	26,471,313
管理費支出	13,897,255
特別会計繰入金支出	48,917,285
事業活動収支差額 (A)	121,983,854

◎投資活動収支の部

投資活動収入	49,517,285
特定資産取崩収入	49,517,285
投資活動支出	122,379,553
基金等積立支出	122,379,553
投資活動収支差額 (B)	▲ 72,862,268

◎財務活動収支の部

該当なし (C)	0
当期収支差額 (A + B + C)	49,121,586
前期繰越収支差額	562,576
次期繰越収支差額	49,684,162

※ 2008 年度の平均為替レート 1 ドル＝105.15 円 1 パーツ＝3,2342 円
 ※ 2008 年度の役員報酬は、5,170,694 円である

《特別会計（緊急救援事業）》2008 年度収支計算書

2008 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

(単位：円)

事業活動収入	137,087,427
寄付金収入	バン格拉デシュ・サイクロン収入 20,559,555
	ミャンマー・サイクロン収入 57,076,014
	その他収入 608,040
補助金等収入	9,926,533
一般会計繰入金収入	48,917,285
事業活動支出	111,810,299
事業費支出	バン格拉デシュ・サイクロン支出 39,128,194
	ミャンマー・サイクロン支出 35,861,641
	南タイ事業、タイ・スラム火災支出 19,045,185
	アフガニスタン雪害支出 2,432,630
	ラオス白アリ被害支出 282,857
	三宅島・風の家支援支出 500,000
	その他支出 5,222,238
一般会計繰入金支出	9,337,554
事業活動収支差額	25,277,128

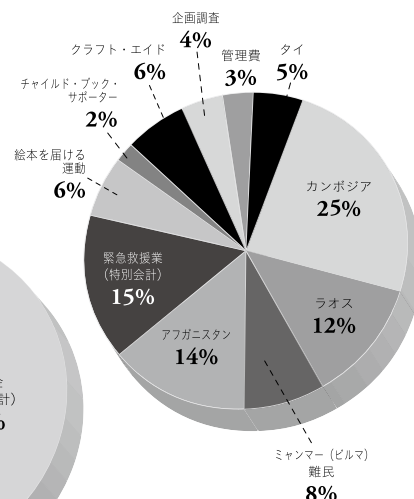
◎投資活動収支の部

該当なし	0
------	---

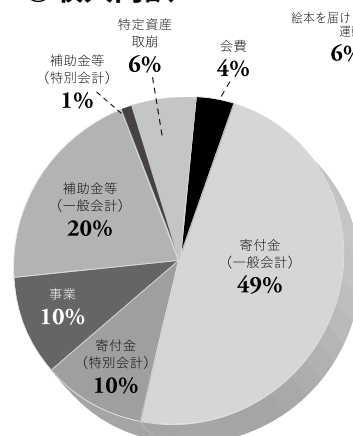
◎財務活動収支の部

該当なし	0
当期収支差額	25,277,128
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	25,277,128

◎支出内訳



◎収入内訳



《一般会計》2009 年度収支予算書

2009 年 1 月 1 日～2009 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

(単位：円)

事業活動収入	530,926,000
基本財産運用収入	100,000
特定資産運用収入	400,000
会費収入	30,000,000
寄付金収入	323,732,000
事業収入	41,860,000
補助金等収入	134,314,000
雑収入	520,000
事業活動支出	535,955,000
事業費支出	524,685,000
タイ事業費支出	41,250,000
カンボジア事業費支出	132,819,000
ラオス事業費支出	77,812,000
ミャンマー（ビルマ）難民支援事業費支出	50,426,000
アフガニスタン事業費支出	83,772,000
絵本を届ける運動事業費支出	31,391,000
チャイルド・ブック・サポーター事業費支出	10,030,000
クラフト・エイド支出	31,249,000
企画調査支出	1,930,000
人件費支出	36,889,000
賃借料支出	1,962,000
諸経費支出	25,155,000
管理費支出	11,270,000
事業活動収支差額 (A)	▲ 5,029,000

◎投資活動収支の部

投資活動収入	9,200,000
特定資産取崩収入	9,200,000
投資活動支出	0
投資活動収支差額 (B)	9,200,000

◎財務活動収支の部

該当なし (C)	0
----------	---

当期収支差額 (A + B + C)	4,171,000
--------------------	-----------

前期繰越収支差額 (07 年度決算と同額を計上)	562,576
次期繰越収支差額	4,733,576

※ 2009 年度収支予算書の為替レート 1 ドル＝120 円 1 パーツ＝3.7 円

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計事務所による財務諸表の調査報告を受けております。

《特別会計(緊急救援事業)》2009年度収支予算書

2009 年 1 月 1 日～2009 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

(単位：円)

事業活動収入	300,000
寄付金収入	300,000
事業活動支出	10,550,000
事業費支出	10,550,000
事業活動収支差額	▲ 10,250,000

◎投資活動収支の部

投資活動収入	10,250,000
特定資産取崩収入	10,250,000
投資活動支出	0
投資活動収支差額	10,250,000

◎財務活動収支の部

該当なし	0
------	---

当期収支差額	0
--------	---

前期繰越収支差額	0
----------	---

次期繰越収支差額	0
----------	---

貸借対照表・総括表

2008 年 12 月 31 日現在

◎資産の部

(単位：円)

	一般会計	特別会計	合計
流動資産	102,883,356	25,277,128	128,160,484
固定資産	361,737,197	0	361,737,197
基本財産	50,000,000	0	50,000,000
特定資産	289,849,700	0	289,849,700
その他固定資産	21,887,497	0	21,887,497
資産合計	464,620,553	25,277,128	489,897,681

◎負債の部

	一般会計	特別会計	合計
流動負債	53,199,194	0	53,199,194
固定負債	48,256,471	0	48,256,471
負債合計	101,455,665	0	101,455,665

◎正味財産の部

	一般会計	特別会計	合計
指定正味財産	292,649,700	0	292,649,700
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)	0	
(うち特定資産への充当額)	(242,649,700)	0	
一般正味財産	70,515,188	25,277,128	95,792,316
(うち基本財産への充当額)	0	0	
(うち特定資産への充当額)	0	0	
正味財産合計	363,164,888	25,277,128	388,442,016
負債及び正味財産合計	464,620,553	25,277,128	489,897,681

組織ネットワーク Organization&Network

❖ 会員



会員合計	2,009 名
社員会員	322 名
社員個人会員	267 名
社員団体会員	55 名
賛助会員	1,686 名
賛助個人会員	1,403 名
賛助学生会員	75 名
賛助団体会員	172 名
賛助維持個人会員	21 名
賛助維持団体会員	15 名
名誉会員	1 名

(2008 年 12 月 31 日現在)

❖ 名誉会長

松永 然道 静岡県・宗徳院東堂

❖ 顧問

足立 房夫	社団法人協力隊を育てる会会長、 社団法人東京都障害者スポーツ 協会副会長
阿部 豊淳	宮城県・光寿院住職
荒巻 裕	近畿大学副学長・文芸学部教授
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺貫主、 特定非営利活動法人れんげ国際 ボランティア会会長
旗本 宏昌	東京都・泰宗寺住職
藤本 幸邦	名誉会員、長野県・円福寺東堂、 円福友の会会長
松野 宗純	福井県・地藏院東堂、 全国 P H P 友の会相談役

(2009 年 4 月 1 日現在)

❖ 役員 (理事 18 名、監事 2 名)

理事 (会長)	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
理事 (副会長)	神津 佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
理事 (副会長)	三部 義道	山形県・松林寺住職
理事 (専務理事)	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺副住職
理事 (常務理事)	倉科 利行	長野県・全久院住職
理事 (常務理事)	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事 (常務理事)	八木澤 克昌	S V A アジア地域ディレクター S V A タイランドアドバイザー
理事	上原 泰男	東京災害ボランティアネットワーク事務局長
理事	亀崎 弘記	全国電力関連産業労働組合労働政策局長
理事	里見 照子	医療法人英然会理事
理事	角 直彦	特定非営利活動法人シャンティ山口代表理事
理事	関 尚士	S V A 事務局長
理事	永堀 宏美	人材 (人財) 開発 & 教育コンサルタント
理事	野村 修一	弁護士
理事	萩野 頼子	株式会社飯能製作所代表取締役
理事	秦 辰也	近畿大学文芸学部英語多文化コミュニケーション学科教授
理事	笹岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	渡辺 恵司	ワタケイ紙器株式会社代表取締役会長
監事	青木 利元	ボランティア活動国際研究会代表
監事	白石 孝	自治労荒川区職員労働組合書記長

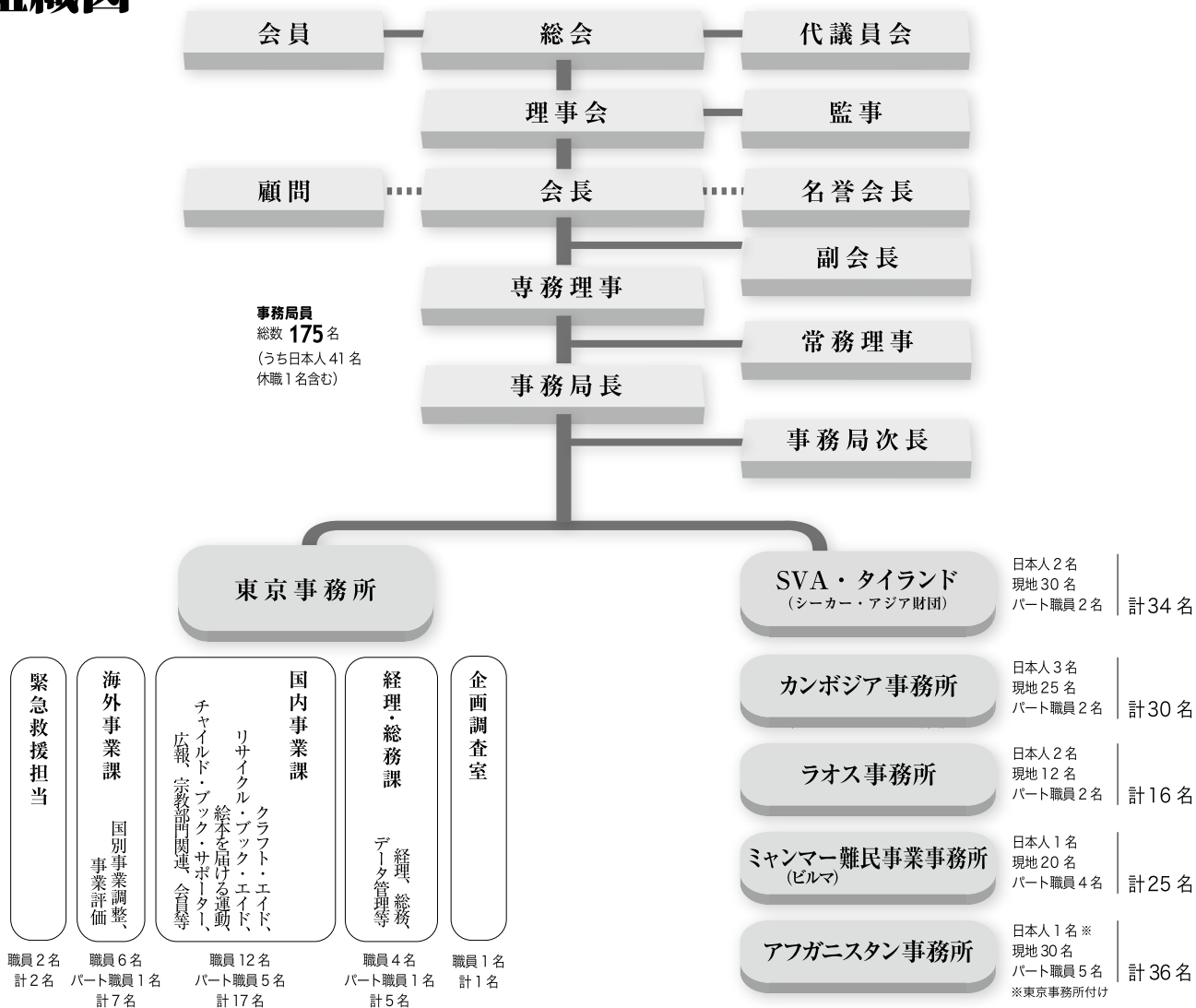
(2009 年 4 月 1 日現在)

❖ 代議員 (42 名)

萩野 徹厳 (北海道)	浅野 幸子 (東京都)	S V A 京都寺院の会 (京都)
佐野 俊也 (北海道)	芦川 正夫 (東京都)	橋本 純信 (奈良県)
高山 元延 (青森県)	柏原 信幸 (東京都)	西村 信恵 (広島県)
谷本 俊昭 (岩手県)	坂本 観泰 (東京都)	澤 真吾 (島根県)
伊串 泰純 (宮城県)	高久 実己子 (東京都)	松尾 哲雄 (長崎県)
岡崎 正利 (宮城県)	平岩 町子 (東京都)	伊藤 暢道 (山口県)
田中 治彦 (茨城県)	増田 和生 (東京都)	有馬 嗣朗 (山口県)
黒田 光泰 (栃木県)	岡野 雅代 (神奈川県)	荒木 正昭 (熊本県)
矢島 道彦 (栃木県)	鹿野 融完 (神奈川県)	甲斐 之彦 (大分県)
大圓寺国際ボラン ティア会 (埼玉県)	近藤 博道 (長野県)	
後藤 史郎 (埼玉県)	宮下 俊哉 (長野県)	
丸岡 晶 (埼玉県)	横澤 敬雄 (長野県)	
三田村 昌生 (埼玉県)	渡邊 真人 (新潟県)	
宮寺 守正 (埼玉県)	嶋田 英淳 (静岡県)	
木村 憲 (千葉県)	松永 寛道 (静岡県)	
櫻井 大文 (千葉県)	浅田 有彦 (愛知県)	
	透 隆嗣 (岐阜県)	

(2009 年 4 月 1 日現在)

組織図



(2009 年 4 月 1 日現在)

❖ 参加ネットワーク一覧

◎国内

NGO—労働組合国際協働フォーラム【企画委員】／カンボジア市民フォーラム【団体会員】／ジャパン・プラットフォーム (JPF)【NGOユニット参加団体】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／開発教育協会 (DEAR)【理事】／教育協力NGOネットワーク (JNNE)【運営委員、事務局長】／国際協力NGOセンター (JANIC)【正会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク (震つな)【幹事】／中央共同募金会—災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】／東京災害ボランティアネットワーク (東災ボ)【副代表、運営委員】／特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／日本NPOセンター【会員】／日本UNHCR—NGOs評議会 (J-FUN)【団体会員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク (JANN)【団体会員】／日本図書館協会【会員】／貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本 (GCAP Japan)【サポーター】／仏教NGOネットワーク (BNN)【運営委員、副代表】

◎海外

Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)、在アフガニスタン【会員】／Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)【理事】／Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT) (難民支援事業調整委員会)、在タイ【会員】／Cooperation Committee for Cambodia (CCC)、在カンボジア【会員】／Coordinating Committee for Slum Development (CCSD)、在タイ【会員】／International NGO Education Meeting、在ラオス【会員】／International NGO Meeting、在ラオス【会員】／Japanese NGO Network Meeting (JANM)、在ラオス【会員】／Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)、在カンボジア【世話人】／NGO Education Partnership (NEP)、在カンボジア【会員】／Resettlement Action Network (RAN)、在カンボジア【会員】／Task Force for Children in Thailand (TFCT)、在タイ【会員】

(2009 年 4 月 1 日現在)

❖ 国内における 主な受賞歴

正力松太郎賞 (84 年)
ソロプチミスト日本財団賞 (85 年)
外務大臣賞 (88 年)
毎日国際交流賞 (94 年)
東京都豊島区感謝状 (95 年)
防災担当大臣賞 (04 年)
兵庫県知事感謝状 (05 年)
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(08 年)

(2009 年 4 月 1 日現在)

シャンティ

2009年7月1日発行（1、4、7、10月1日発行）

増刊 通巻251号

1985年6月28日第三種郵便物認可

手を、とりあうこと。

寄付金について、 税の優遇措置が 受けられます

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、外務省より「特定公益増進法人」として認定されています。ご寄付いただいた方は、所得税・法人税および相続税の寄付金控除の適用を受けることができます。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。